

2014年8月入職

たんじともゆき  
丹治智之

## 接する時間は短くても、密度を濃くすることはできる

### 一挙手一投足からニーズを敏感に察する

診療放射線技師は、限られた時間の中で検査を行うため、看護師や臨床工学技士のように患者さまと深く接する時間を持つことが難しい職種であります。そのなかで、コミュニケーションを大切にしたいからこそ一期一会の想いで患者さまに接しています。私は常に患者さまの一挙手一投足に気を配り、何を求めているのかを敏感に察することを心がけています。

例えば、早く検査を終わらせたいという雰囲気を出している方であれば、迅速に検査を行うことが患者さまにとっての心地よさです。話したそうな方であればお声をかけますが、どこまで踏み込んでいいのかも敏感に察知するようにしています。患者さまによって性格は異なりますし、日によって気分も変わります。思いやり行動とは、押し付けることではなく、患者さまのニーズに合わせて柔軟に対応することです。接する時間は短くても、気持ちを察することで密度を濃くすることはできる。私はその信念を持って仕事に取り組んでいます。

### 自分が受けた優しさを、社会に還元したい



思いやりエキスパートに選ばれたときは、とてもうれしかった反面、今後まわりからの目が厳しくなるという不安もありました。でもそれは歓迎すべきプレッシャーであり、自分の行動を律しながら、放射線部の発展を牽引していきたいと思っています。思いやりエキスパートの研修であらためて気づかされたことがあります。患者さまの検査を行うのは、質の高い画像情報を医師に提供するためではなく、あくまでも患者さまのためであるということ。その意識は常に持つておかなければならないと強く感じました。

撮影の精度を上げていくためには、自己研鑽を怠ってはいけません。これまでも部署内外の勉強会で技術を磨き、部署全体で情報共有を図ってきましたが、より高い志と誇りを持って、今よりもレベルを上げていきたいと思っています。私はこれまでの人生の中で、さまざまな方々から多くの優しさをいただけてきました。私が診療放射線技師という仕事を選んだのは、自分が受けた優しさを社会に還元したかったからです。初心を忘れることなく、チーム医療の一員として真摯に仕事に向き合っていきたいと思っています。



患者さまの笑顔と  
日々の自己研鑽!!

丹治智之